

## まちづくり運営協議会との連携

平戸市南部公民館  
館長 寺田 文有

平戸市南部地区は、志々伎山、屏風岳、佐志岳、礪岩、上段の野など美しい山や丘が、独特の景観を織りなしている自然豊かな地域です。

また、当公民館がある多目的研修センターは、農業振興施設として建設され、地域の方々が地域行事等に活用されています。

本市では、現在、10のまちづくり運営協議会があり、そのうち、4つのまちづくり運営協議会が南部地区にあります。そのまちづくり運営協議会と連携して事業ができるように、3か月に一度、4つの協議会のそれぞれの事業や公民館の事業について、協議を行っています。

先日は、4つのまちづくり運営協議会の内の津吉地区まちづくり運営協議会が3世代交流ユニカール大会と銘打って大会を行いました。

地区の方々の中には、ユニカールを実際したことがない方が多かったので、南部公民館職員がサポートをし、大会を開催するようになりました。まずは、投げ方から講習を行い、試合を行いながら覚えてもらうようにしました。最初は投げ方がぎこちなかった方々も、試合が進むにつれ、投げ方のコツを掴み、ストーン(ユニカールで使用する道具)をこちらが驚くような位置に投げる方もいました。

大会は、年配の方から小学生までの地域の方が参加されましたが、若い人が必ずしも勝つとは限らず、番狂わせのゲーム展開が生じるなど参観者も楽しみながら交流ができたように思います。

大会が始まるまでは、参加された皆さんの顔は強張っていましたが、大会が終わった頃には、とてもいい笑顔を見ることができました。

今後は、他のまちづくり運営協議会とも連携して、地域の活性化を進めていける講座を企画し、地域の活性化を推進できればと思っています。

《選手宣誓》



《試合風景》



# 子ども達と公民館

松浦市立上志佐公民館  
館長 小牟田 郁子

上志佐公民館は、人口716人、281世帯という小さな農村集落の中にあります。10年前に設置され、市役所出張所を併設しています。昼間は忙しい農業従事者が多いのに加え、人口の75%が高齢者であるという現実に講座の開設に悩みました。

そこで、子どもを通して公民館を知ってもらうのが良いのではという思いを持ち、近くの小学校と保育園との連携を試みました。これは、とても効果があり、夏休み特別講座を計画することによって、保護者との関わりも増え、公民館を少し分かってもらうことができました。

保護者や祖父母の参加が出来るものとして「親子で魚釣り」という講座は、毎年固定の講座として定着しています。その他、日本の伝統文化に親しむ講座、体育、手芸や工作等々、毎年、何か新しいものを入れることによって子ども達の期待もふくらみ、夏休み前になると「今年は何をやるのですか?」と質問されます。今年度、ビーズ教室を行ったところ、男子の参加が多く、そしてその器用さに驚きました。

子どもたちが家庭で公民館のことを伝えてくれるところからでしょうか、少し住民のみなさんとの距離が縮まり、成人向けの講座への参加が増えています。

しかし、一つの大きな課題が残っています。それは、田舎離れと少子化です。地域や学校との連携をもっと密にするため、今年から学校支援会議へ参加させてもらっています。また、保育園との共催で行う「子育て支援教室」は、若いお母さんへのアピールに役立っています。

今後も、努力を重ねていきたいと思っています。



子育て支援の様子

## 4 館合同高齢者学級

長与町教育委員会生涯学習課  
主事 松本 浩平

平成31年1月に町制50周年を迎える長与町は、町としては県下最大の人口を有し、長与川を中心に自然と住環境が調和した町として発展しています。しかし、人口の高齢化は他市町と同じく進んでおり、公民館の果たす役割にも大きく関わってきています。

公立の長与町公民館・高田地区公民館・上長与地区公民館・多目的研修集会施設の4館では、高齢者を対象に「健康・福祉・生きがいづくり」を目的とした高齢者学級を毎年開講しています。

今回ご紹介するのは、この4館の受講者が一堂に会して、前述の目的に加え、より質の高い芸術や演芸に触れるとともに、参加された方々のつながりを町内全域に広げていこうと開催しているものです。

今年は、「みんなで歌おう 秋のコンサート」と題して、町内にお住まいのプロオペラ歌手をお招きし、参加型のコンサートを開催しました。

2部構成の前半は、ミニコンサートで本物のクラシックや心に残る日本の名曲にじっくりと触れていただき、後半では、日本の名曲を参加者全員で楽しく歌うことで、豊かな時間を共有していただきました。

ただ歌うだけではなく、腹筋や横隔膜を使うことは、健康な身体作りにもつながることなど興味の尽きない話を織り交ぜてのコンサートとなりました。また、このような芸術家が町内にお住まいであるということにも、楽しく嬉しい驚きの発見があり、コンサート終了後も会話を楽しんでおられました。

公民館単位で開催されるときとはまた違った出会い・ふれあいに、派生的な効果が見られたのも1つの成果だと考えています。

予算の面では、この4館合同高齢者学級分を別に予算化しており、合同で開催することでより魅力ある内容を企画し、参加される高齢者の方々を増やしていくことができるよう工夫しているところです。

今後さらに長与町の「住みよいまちづくり」の一端を担っていければ幸いと考えています。



## 世代間交流の場に

波佐見町志折郷自治公民館

公民館長 岡村 真由美

《志折郷全景『民生委員・公民館長だより』Vol.22より》

波佐見町には郷と呼ばれる自治会が22、各郷には1つ以上の立派な自治公民館があります。各家庭には有線放送が引かれていて役場や自治会からのお知らせが朝夕定時に流れるようになっています。

生まれ育った本町に再び住むようになって30年。波佐見高校に勤務したお陰でふるさとを再認識し愛着も強まりました。退職後まもなく民生委員を引き受け、公民館を利用して私がまず行ったのは餅つきでした。『民生委員だより』を発行し「石臼はありませんか」と呼びかけると直ぐに提供者がありました。ヨモギ餅をこしらえ、春の到来をみんなで味わいました。翌年4月の役員改選で公民館長にも立候補し、今は毎月の回覧板に『民生委員・公民館長だより』と改称したカラー紙が挟まれています。新たに公民館で行うようになったのは、餅つき、七夕祭り・星空観望会、いきいきサロン、英語復習教室、資源ごみ回収です。まだまだハードルは高いようですが、いつか通学合宿もできればと考えています。

昔はどここの地区にもあった青年団と婦人会がなくなって久しく、高齢者は増えても老人クラブへの加入者はさほど増えないという状況がこの地区でも見られます。また、昔から住んでいる「旧住民」、高齢化したかつての「新住民」、近年この地区に家を建てて住むようになった子育て世代の「新・新住民」の間の交流が少ないと感じていたため、身近な自治公民館を世代間交流の場にすることを活動の目標にしています。

「やれる人が、やれる時に、やれる事を」と始めた公民館長の仕事なのですが、「後の人が大変だ」という声も聞かれます。「決められた事だけをしては発展はありません、消えてしまいますよ」というのが私の答え。持続可能な地域づくり！それが私の新しい仕事だと思って励んでいます。



## 小値賀町の公民館活動

小値賀町教育委員会教育生涯学習班  
主事 西 敏博

小値賀町は小値賀本島を中心に、その周囲に散在する大小17の島で構成されています。2018年11月時点で人口2,452人(1,246世帯)と県内一小さな自治体ですが、離島という環境もあり、町民同士の結びつきは強いものになっています。また、他の市町同様、少子高齢化が進んでいますが、お年寄り元気な方が多く、島の宝である子ども達を大切にしようという意識が高い町です。

小値賀町の特色ある公民館活動として「おぢか山学校」及び「熟年大学」をご紹介します。

「おぢか山学校」とは、主に小学生を対象とし、土日祝日に平日の放課後では体験できない特別なプログラムを行う事業です。主なプログラムとして、「料理教室」、「球技大会」、「カヌー教室」、「もちつき大会」、「門松作り教室」があります。また、今年度は「野外アート教室」として、約30年前に当時の子ども達によって護岸壁に描かれた壁画の修復を行いました。他にも「ながさき土曜学習応援団」の出前講座を利用して「科学実験教室」や「ロボット・プログラミング体験」を子ども達に体験させることができました。

「熟年大学」は小値賀町内の65歳以上の方を対象とした生涯学習事業です。熟年大学は4月より登録者の受付を行い、講座を開催する際には登録者に向けて案内を送付、参加者を募る形式をとっています。平成30年度の登録者数は61名です。「折り紙教室」、「手品教室」、「図書館訪問」、町営船を利用した「離島見学」、小学校1年生との「昔遊び交流」など様々な講座を行っています。

小値賀町の公民館事業は参加者の学習意欲を高め、参加者同士、及び地域の人々との交流を深める場所として機能しています。今後も各世代の町民を引きつける事業を企画、発案することによって、人と人をつなげる公民館事業に取り組みます。



《壁画修復の様子》



《昔遊び交流の様子》

# 特別養護老人ホーム訪問交流会

新上五島町教育委員会生涯学習課  
主事 宮本誠也

新上五島町の奈良尾公民館では、高齢者を取り巻く社会状況や生き方の理解を深めるために、計画的・継続的・集団的に学習し、生きがいのある豊かな老後生活を送ることを目指して、60歳以上を対象に高齢者教室「あこう大学」を開設しています。

このあこう大学での活動のひとつに特別養護老人ホームへの訪問があり、講師を招いて、出来る範囲で体を動かしたり歌ったりして交流を図ります。昨年度の交流の締めには、あこう大学の有志による出し物が披露され、受講者も入所者も笑顔を見せ、一緒になって楽しむ様子が見られました。

受講者からは自分たちが入るかもしれない施設で過ごすことで不安払拭が出来たという声もあり、数年後には自分たちがどのように生活するのか考えをめぐらせている場面も見られました。

また、入所者は講師が用意した音楽で可能な範囲で体を動かしたり歌ったりして楽しんでおり、選曲の懐かしさから涙を流す方もいらっしゃいました。

健康や老いへの不安がある中でも、共に文化的な活動を楽しみ、笑い合う機会は「豊かな老後」を見据える一助になっているのではないのでしょうか。

あこう大学の受講者のみならず、施設側からも次回の実施に期待の声があがっています。

高齢者の方を楽しませることに長けた講師の確保に課題は残りますが、今後も続けていきたい活動です。



交流の様子